

(1)評価基準に沿った評価	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
(2)記述評価						
・基本的な疫学調査として有用な研究結果を出している。 ・調査方法の変更が評価・判断の困難性を増している。						
・小児については長期予後に関する貴重な研究である。成人ではビッグデータによる検討であり、研究手法としては有用であるが、知りたい年齢層である60歳以上についても検討結果が欲しいところである。女性で肥満と喘息の発症が、日本仕様の肥満に対する基準でも認められていることは興味深い点である。						
・小児の長期経過観察と、レセプトなどを使用した調査研究である。成人で、喘息有病率、治療実態などの経年変化が明らかになった。小児では、長期経過の様子がそれなりに明らかになった。						
・我が国における貴重な喘息疫学研究であり、今後の継続が望まれる。						
・縦断研究による興味深い成果が示されている。						